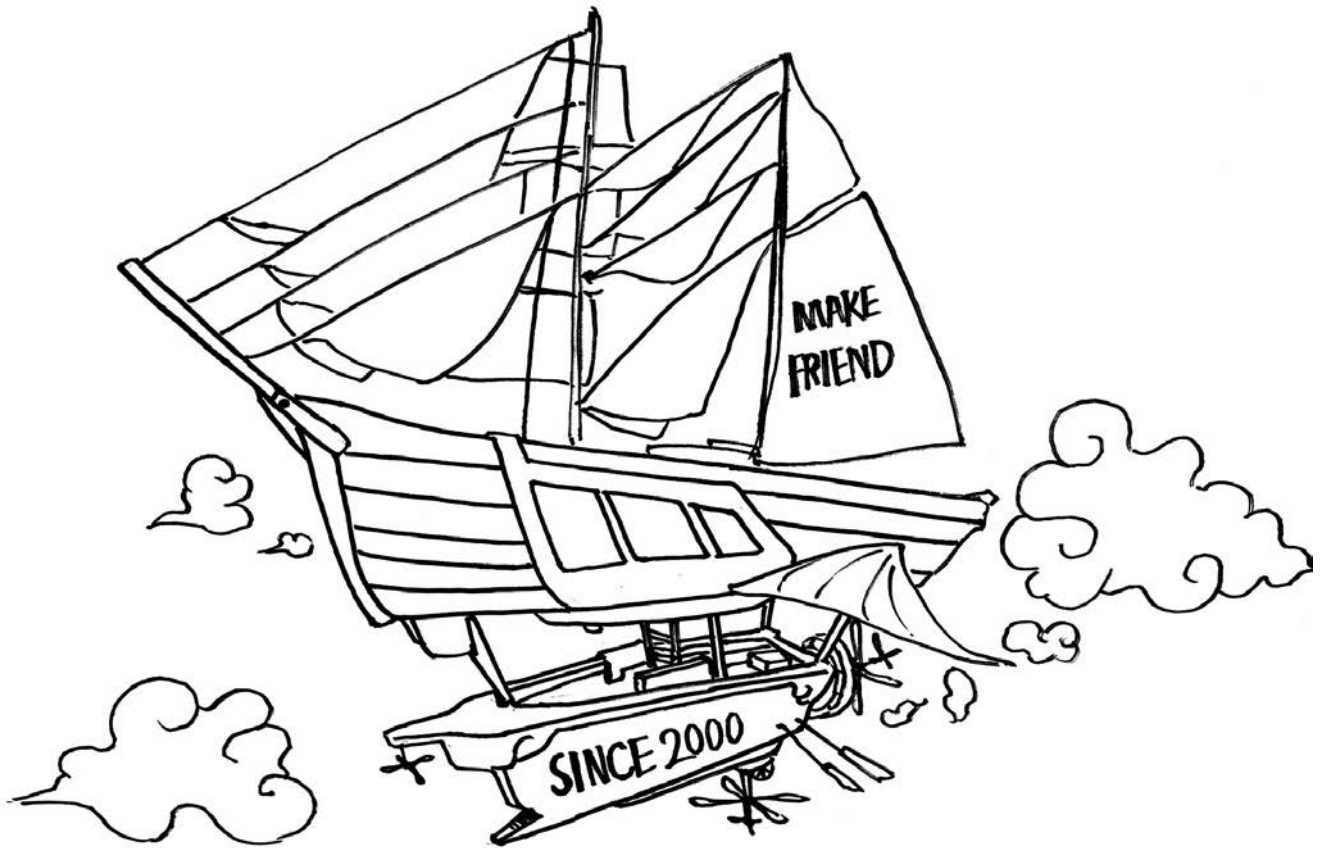


2019（令和元）年度

熊本大学教育学部フレンドシップ事業

実施・成果報告書

第一部 メイクフレンズの活動報告



熊本大学教育学部
附属教育実践総合センター

2020（令和2）年3月

目 次

はじめに

- 1 令和元年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業報告書の刊行に寄せて
…………… 熊本大学教育学部長 八 幡 英 幸 1
- 2 試行錯誤できる貴重な機会としての「フレンドシップ事業」
…………… 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長 干 川 隆 2

I メイクフレンズ活動の実施報告

- 1 メイクフレンズについて …………… 3
- 2 2019（令和元）年度メイクフレンズ活動体系について
…………… 熊本大学教育学部2年 砂 原 文 恵 5
資料 2019年度熊本大学メイクフレンズ学生名簿 …………… 8
- 3 2019年度メイクフレンズ年間活動一覧 …………… 11
- 4 2019年度メイクフレンズ外部依頼による活動一覧 …………… 16
- 5 2019年度活動報告 …………… 17
 - (1) メイクフレンズ「秋津東部単発班」活動報告書
 - (2) メイクフレンズ「中央単発班」活動報告書
 - (3) メイクフレンズ「五福ホール班」活動報告書
 - (4) メイクフレンズ「大江プランナー班」活動報告書
 - (5) メイクフレンズ「託麻プランナー班」活動報告書
- 6 2019年度（令和元年度）熊本大学教育学部フレンドシップ事業
シンポジウム・分科会開催要項 …………… 46

II 教育実践総合センター教員からのメッセージ

- 1 子ども理解の深化、メイクフレンズ活動の進化
— 更によりよいものを目指して、つながること —
…………… 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター兼任教員
熊本大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）専任教授
中 山 玄 三 51
- 2 令和元年度熊大メイクフレンズの活動に関わって思うこと
…………… 熊本大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）シニア教授
長 濱 茂 喜 53
- 3 メイクフレンズの活動に関わって思うこと
…………… 熊本大学教育学部附属教育実践総合センター特任教授 甲 山 敏 彦 54

令和元年度熊本大学教育学部フレンドシップ事業報告書の 刊行に寄せて

熊本大学教育学部長 八 幡 英 幸

令和2年3月4日(水)に開催が予定されておりました本年度の熊本大学教育学部フレンドシップ事業シンポジウム・分科会は、新型コロナウイルスの流行により、残念ながら中止せざるをえなくなりました。本年度は、このように予想外の事態となりましたが、年度当初から本事業に参加し、シンポジウム・分科会の準備を熱心に進め、立派な報告書を作成されたメイクフレンズの学生の皆さんの努力を称えたいと思います。また、学生たちをご指導いただきました学部及び大学院の先生方や、日頃から本事業をご支援いただき、シンポジウム・分科会ではご来賓としてご指導、ご助言いただく予定になっておりました熊本県・市の関係機関の先生方に対し、心より御礼申し上げます。

ところで、フレンドシップ事業につきましては、毎年7月初め頃に行われる本学教育学部と熊本市教育委員会との連携協力会議にて、前年度の取り組みの実績が報告されます。昨年7月11日(木)に開催された同会議では、熊本市教育委員会の担当者様より、次のように前年度の実績が報告されました。

まず、「子どもチャレンジ公民館」については、五福公民館におけるプランナー会議等の活動が15回、なつの大うんどう会等の活動が3回、メイクフレンズからの延べ参加人数は304人、花園公民館におけるプランナー会議等の活動が16回、わくわく工作ランド等の活動が8回、メイクフレンズからの延べ参加人数は91人となっています。また、「その他の子ども活動支援事業」については、大江・中央単発班、託麻・東部単発班、五福ホール班の各班が、計14回の講座・事業を実施し、メイクフレンズからの延べ参加人数は計328名となっています。さらに、「野外活動等指導者派遣事業」についても、メイクフレンズから20回近く、延べ50人近い指導者が派遣されています。

これからの学校の姿として、「地域とともにある学校」の実現が求められている今、このような地域での活動が持つ意味はますます大きくなってきます。本学教育学部では、昨年3月に、「大学・大学院における教育研究の充実及び社会教育、体験活動等を推進し、地域社会の発展に貢献すること」を目的として、国立阿蘇青少年交流の家との連携協定を締結しました。また、熊本地震の被災地における学習支援・学校支援の取組である「教育学部ましきプロジェクト」も継続しています。本学部では、これからもさらに教育研究の新たな可能性を求めて、地域に連携の輪を広げていきたいと考えています。

本報告書にまとめられましたメイクフレンズの活動に対し、関係者の皆様より忌憚なきご意見をいただきますとともに、今後とも本事業をご支援いただきますようお願い申し上げます、私からの挨拶に代えさせていただきます。

試行錯誤できる貴重な機会としての「フレンドシップ事業」

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター長 干 川 隆

今年度、新型コロナウイルス感染防止のために、例年開催されていたシンポジウムが中止になってしまったことは、非常に残念なことでした。これまでのフレンドシップ事業の取り組みを知るにつけ、私は、本事業を学生が主体的に活動を企画し準備をし、実際に活動を実施して、振り返りによってさらに次の活動につなげる素晴らしい活動であると思います。

最近の学生を見ていると失敗や「試行錯誤」の機会がほとんどなく、失敗をさせないシステムが逆に学生の成長の芽をむしりとってしまっているのではないのでしょうか。たとえば、欠席が続いているときには教員が学生に連絡をとったり、書類が提出されていないときには、早めに教務係や教員が学生に連絡をとって締め切りまでに提出させたり、締め切りを間に合わなかったときには、教員と相談して何とか対応してしまうような状況です。つまり、今の大学では学生が失敗することはほとんどなく、学生は事務員や教員にすべて任せておけば、進級して卒業することになります。果たして、このような失敗をすることがなく、また失敗をしたとしても他の人が何とか対応してくれるような状況の中で育った学生が、教師として未来を切り拓くことができるのでしょうか。

日頃かかわっている学生と比べて、フレンドシップ事業に参加している学生は自ら企画し活動しています。その中には、予想通りに上手くいった経験を積むこともあります。しかし、多くは何らかの課題が見つかり、そのためにさらに次の活動を修正する必要があります。このような失敗をしながらも「試行錯誤」を繰り返して、より良い活動を実施することと、その結果としての子どもの反応は学生の自信を育てていきます。私は、このような観点から、失敗や試行錯誤のできるフレンドシップでの経験をぜひ大切にしたいと思います。

最後になりますが、日頃からメイクフレンズの学生にご指導ご助言いただいている公民館社会教育主事の先生方と熊本大学の先生方に御礼を申し上げます。さらに、このような貴重な機会を与えていただいています熊本県教育庁並びに熊本市教育委員会の先生方に厚く御礼を申し上げます。